



2月の花 マンサク

リボン状の鮮やかな黄色い花を枝いっぱい咲かせ樹高は3~10mほど。花びらは細長く、やや縮れているのが特徴です。早春を代表する花木のひとつで春の訪れを告げる。

とうめい news 2025.2.1 Vol.282

〒248-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者:河野 昌史
編集責任者:佐藤 賢治
印刷:(有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

沈黙の臓器 膵臓

消化器内科:玉置 道生

TOPICS

こんにちは。消化器内科の玉置と申します。

このコラムをご覧くださいましてありがとうございます。今日は、膵臓についてのお話です。

さて、「解体新書」という文字は、歴史の教科書でご覧になったことがあると思います。江戸時代の医師である杉田玄白、前野良沢らが「ターヘル・アナトミア」（元々ドイツ語で出版された解剖書のオランダ語訳）を日本語に翻訳し1774年に出版したものです。解体新書の中で、膵臓は絵としては描かれていたのですが、その時点ではまだ「膵臓」という文字が割り当てられておらず、アルファベットのままでした。一方、中国医学の言葉に「五臓六腑」というものがあり、人間の内臓全体を意味するものなのですが、この五臓六腑にも膵臓という文字は記載されていないのです。

では膵臓という文字はどこからきたのでしょうか？歴史を紐解きますと、1805年に書かれた宇田川玄真の医(い)範堤(はんてい)綱(こう)という本に初めて「膵」という文字が考案され、以後、和製漢字として使用されています。

このように、他の臓器と比べて歴史的にも目立たなかった膵臓は、体の中でも胃の後ろに隠れた薄く細長い臓器ですが(図1)、インスリンなどのホルモンのほか消化液も作っており、我々が生きていくためには必要不可欠なのです。この膵臓にできるがんを膵臓がんと言いますが、膵臓の周囲にある胆管、十二指腸、肝臓、胆のう、脾臓、大動脈などに密かに水面下で広がっていく特徴が

あるため、発見された時点では手遅れになっていることが少なくありません。沈黙の臓器と言われる所以です。表1には、がんでお亡くなりになった方の数を上位5位まで示しておりますが、この中で、唯一男女とも増加の一途を辿っているのが膵臓がんです。

この膵臓がんを早期発見することを目標に開発されたのが超音波内視鏡で、当院でも積極的に活用しておりますので、ご心配なことがございましたら、いつでもご相談なさってください。

図1

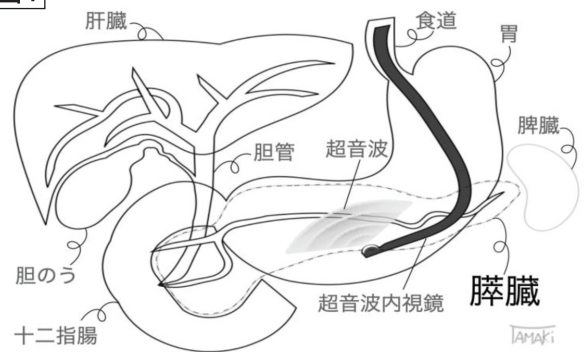


表1

がんで死亡した数(2022年)					
	1位	2位	3位	4位	5位
男女計	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
男性	肺	大腸	胃	膵臓	肝臓
女性	大腸	肺	膵臓	乳房	胃